

国立国語研究所学術情報リポジトリ

概要

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中川, 奈津子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003271

概要

中川 奈津子¹

1. 目的

本報告書は、国立国語研究所が2019年8月に八戸市鮫町で行った調査の結果を報告する。本調査は、国立国語研究所「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(機関拠点型基幹研究プロジェクト)および「方言の記録と継承による地域文化の再構築」(人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」)という2つのプロジェクトの共同研究として実施された。それぞれのプロジェクトの目的は以下のとおりである。

- 日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成²

いま、世界中のマイナー言語(規模の小さな言語)が消滅の危機に瀕しています。現在、6,000から7,000ある世界の言語のうち、半数がこの100年のうちに確実に消滅し、最悪の場合、10分の1、20分の1にまで減ると言われています。その背景には、人口の都市集中化により周辺地域の人口が減少してしまったこと、社会的・経済的理由によりマイナー言語を使っていた人々がその言語の使用をやめてしまったこと、災害や紛争により人々が生まれた土地を離れなければならなくなったことなどの状況があります。[...]なぜ、言語が多様になったのか考えてみて下さい。おそらく、各地の言語は地域の自然や人々の生活、ものの考え方などに基づいて、長い時間をかけて形成されていったのだと思われます。それらが消滅するということは、長い歴史の中で醸成された人類の智慧が失われてしまうことを意味します。生物の多様性が地球を豊かにしているのと同じように、言語の多様性は人類を豊かにしているのです。[...][ユネスコの]2,500の消滅危機言語のリストの中には、日本で話されている8つの言語—アイヌ語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語—が含まれています。しかし、消滅が危惧されるのはこれだけではありません。日本各地の伝統的な方言もまた、

¹ なかがわ なつこ：国立国語研究所・特任助教 nakagawanatuko@gmail.com

² <https://www.ninjal.ac.jp/research/project-3/institute/endangered-languages/> (last accessed on 2021/2/2)

消滅の危機にあります。これらを記録し、その価値を訴え、継承活動を支援することがこのプロジェクトの目的です。

- 「方言の記録と継承による地域文化の再構築」³

地域社会の変貌により、地域の貴重な文化資源である方言が急速に衰退しつつある現状に対して、自治体や各地の大学・研究者と連携して地域の方言の記録や方言の継承活動を行うことにより、方言を主軸とする地域文化の再構築の可能性と方言のもつ文化的意義に関する研究を行っています。

国立国語研究所では、2010年から沖縄県宮古島、久米島、鹿児島県喜界島、与論島、沖永良部島、八丈島、島根県出雲、宮崎県椎葉、島根県隠岐の島、石川県白峰、愛知県一宮市（旧木曾川町地域）、青森県むつ市などで合同調査を行ってきた。今回の八戸市調査は、むつ市以来、東北地方で2回目の合同調査である。

2. 調査地点について

本調査は青森県八戸市で行われた。八戸市は青森市と並んで青森県の中核市であり、太平洋に面している。東北新幹線の駅もあり、東京駅から新幹線で北上すると青森県に入っ
て初めての駅が八戸駅である。「臨海部には大規模な工業港、漁港、商業港が整備され、その背後には工業地帯が形成され」、「優れた漁港施設や背後施設を有する全国屈指の水産都市であり、北東北随一の工業都市となってい」る。⁴ 人口は約23万人、面積は約300km²。⁵ 特に縄文時代の遺跡が多数出土し、有名な合掌土偶は国宝に指定されている。青森市にある三内丸山遺跡と並んで、八戸市にある是川遺跡、風張遺跡などが有名である。中世以降からは南部氏の城下町として栄えた。

今回調査したのは、八戸駅から東へ約10km、太平洋に面した鮫町である（図1参照）。

³ <https://www.ninjal.ac.jp/research/project-3/multidiscipline/reconstruct-community/> (last accessed on 2021/2/2)

⁴ 八戸市ウェブサイト「八戸市の概要」より。
<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/gyoseijoho/hachinoheshinoshokai/hachinoheshinoprofile/8147.html> (last accessed on 2021/2/2)

⁵ <https://www.e-stat.go.jp/> (last accessed on 2021/2/2)

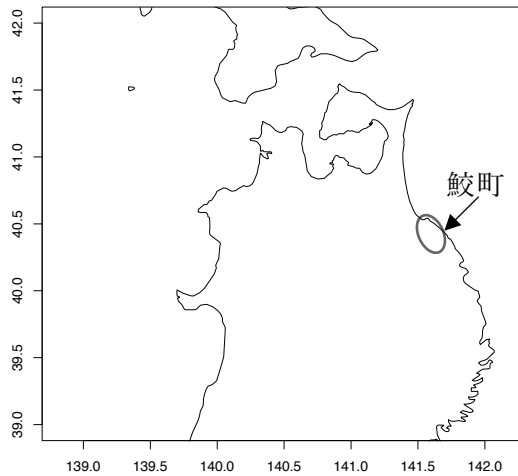


図 1 鮫町の位置

3. 調査について

調査は2019年8月27日、28日の2日間、鮫生活館で行われた。調査内容は以下の通りである。

- 文法項目
 - 格、情報構造
 - 疑問詞
 - アスペクト、テンス
 - ヴォイス
 - 文タイプ
 - 待遇
 - 形容表現、名詞述語
- 基礎語彙、民俗語彙
- 用言の活用

我々に方言を教えてくださいましたのは以下の方々である。調査者らの質問に辛抱強く答えてくださいました。ここに記して感謝する。全員の方が言語形成期を鮫町で過ごされている。

氏名	生年
----	----

梶谷 里志さん	1949 年
橋本 シメ子さん	1938 年
下村 陽子さん	1948 年
沢田 政広さん	1948 年
三浦 晶子さん	1923 年

調査者とその所属（当時）は以下の通りである。

氏 名	所 属（当時）
木部 暢子	国立国語研究所
青井 隼人	東京外国語大学/国立国語研究所
中川 奈津子	国立国語研究所
中澤 光平	国立国語研究所
ローレンス・ウェイン	オークランド大学
金田 章宏	千葉大学
大槻 知世	東京外国語大学
岩崎 真梨子	八戸工業大学
山口 響史	愛知淑徳大学
高橋 新	東京外国語大学
三宅 俊浩	日本学術振興会 DC / 名古屋大学

また、学生を中心とする公募による参加者は以下である。

氏 名	所 属（当時）
木村 有里	横浜商科大学
櫻井 好基	滋賀大学
菅沼 健太郎	一橋大学
寺嶋 大輔	東北大学
藤原 悠真	東京外国語大学
松岡 葵	九州大学
小川 雅貴	東京大学
春日 悠生	京都大学

4. 表記法について

八戸市方言の表記を以下に示す。必ずしも音韻的弁別性のあるものだけを列挙しているわけではない。

	前	中	後
狭	i	ɨ	u (u)
半狭	e		
半広	ɛ		o
広		a	

表 1 八戸方言の母音

	両唇	歯茎	硬 蓋	口	軟 蓋	口	声門
破裂	p b ~b	t d ~d			k g		
摩擦	ɸ	s z					h
破擦		ts dz	tɕ dz		kç		
鼻	m	n			ŋ		
は じ き			r				
接近	w		j				

表 2 八戸方言の子音

母音が鼻音化している場合も、前鼻音化子音 [~b, ~d] と同じく、母音の前に ~ を用いる。促音では子音を重ね、発音は N と表記する。

以上は基本方針であり、独自方針で表記した報告もある。

謝辞

南部弁の普及活動を長年行われている榎谷伸夫氏には、会場のセッティングから調査に協力してくださる方々を探す段階に至るまで、大変お世話になりました。また、ここにお名前を書ききれていない方々からもご助力、応援をいただきました。本当にありがとうございました。